安来市　島田わんぱくクラブ

島田干拓地を通してラムサール条約を学ぶ

活動目的

島田地区と揖屋地区の干拓地や、中海一帯を廻り、動植物の観察と水環境を学習する。「中海の歴史」や「汽水域の自然」に触れ、ラムサール条約に登録された意義を知り、自然環境保全の意識を醸成する。

活動内容

＜７月＞干拓地をはじめ中海をぐるりとバスで廻り、宍道湖・中海淡水化の歴史とラムサール条約登録に至る経緯を学んだ。
＜10月＞宍道湖や中海にはどんな生き物が生息するか、講師の説明を受けてから島田干拓地で魚類の調査や漂着ゴミを拾い、環境問題について考えた。
＜12月＞干拓地に飛来する水鳥や猛禽類の観察では種類の多さに驚き、習性や特徴を学んだ。
＜1月＞活動した資料を大型用紙にまとめ、安来市役所とショッピングセンターで啓発した。

成　　果

これまで、あまり知らなかった島田干拓地と中海の歴史が学べた。干拓地周辺の生き物や植物の調査、水質調査には親子で参加し、自然環境を守る重要さを知り、環境保全のために普段の暮らしの中でできる事はなんだろうかと考えた。安来市役所とショッピングセンターで活動のまとめを展示すると、多くの市民から「干拓地ができた経緯と中海の生き物を守るために家庭で取り組む環境活動の大切さが良くわかった」と大好評だった。

松江市　特定非営利活動法人 水の都プロジェクト協議会

いきづく水辺ふれあいカヌーツーリング

活動目的

宍道湖南岸一帯は年間をとおして夏は水遊び、また漁場の場として潤いを提供している。地域の住民がより水辺に関心を持ち、親しめるように豊かな水環境の利活用と環境の保全を推進する。

活動内容

＜水辺の学習＞カヌーツーリングで巡る宍道湖の水質や生き物の特徴について、専門家からパネルなどで説明を聞いた。
＜観察スポット＞ヨシ原による水質浄化の役割や河口部の水鳥、外来種生物を観察し種類や特徴を学んだ。
＜体験発表会＞参加者の意見交換会では、「カヌーの体験は初めてだったけどスイスイ進み、植物や生きものに近づいて観察することができた」「身近な宍道湖で楽しく水辺に親しみたくさんのことが学べた」などの意見があった。

成　　果

カヌーで巡る体験型の学習会で、宍道湖の生態系や水質の特徴をより水辺に近づき観察ができたことで、参加者が自然の奥深さや新たな宍道湖の魅力を発見することができた。

邑南町　一般社団法人 コミュニティパートナーズ

淀原湿地の保全と理解促進運動

活動目的

淀原湿地の希少な湿地性植物の保全のために、継続的な管理を行う人材の育成と、住民が主体となって活動する体制を整えるために、講演会や観察会を通した保全の意識を醸成し周辺地域の整備に取り組む。

活動内容

＜湿地整備＞
湿地と周辺地域の生態系を保全していくために、湿地からの流出水を土嚢で防いだり、倒木等の除去作業を行った。
＜観察会＞
淀原湿地の特性と変遷、また保全の意義と周辺の動植物について講師から説明を受けた後、淀原湿地で観察会を実施し、ノハナショウブなどの株が増加していることが確認できた。

成　　果

観察会は初めての参加者が多かったが、淀原湿地は湿地特有の動植物を育み、多様な動植物の生息・生育の場として極めて重要な地域であることを学んだ。コロナ禍の影響で継続した保全活動に若い世代も参加する体制を整えることはできなかっが、自治会の活動として「淀原湿地を守る会」を立ち上げ活動していくことになった。

大田市　長久竹の子族

長久町内の竹林整備による里山づくり

活動目的

放置された竹林は周囲の森林や耕作地へ侵入し拡大するが、竹を豊富な地域の資源として竹パウダーや筍、メンマなどに加工する有効な利用を考え、里山の保全の意識の醸成と地域の活性化に取り組む。

活動内容

放置竹林は通学路にあり、ＰＴＡや自治会、他の団体など幅広く参加を呼びかけて整備をした。伐採した竹はチップやパウダーに加工、また竹細工教室の作品は文化祭で展示し、竹資源の有効利用の活動を紹介した。近隣地区でもこれらの活動を参考にして、竹を原料にした筍の缶詰やメンマ作りをする取り組みが広がった。また他県から、取り組みの研修生受入の要請もあった。

成　　果

荒廃し放置された竹林を地区住民が協力して整備すると、これまで不法投棄や獣の住処となっていた竹藪を清々しく美しい景観につくりだすことができた。伐採した竹の有効活用を図るため、他の団体とも連携してさまざまな竹の有効利用を進める事ができ、イベントで加工品を販売することができた。地域では里山保全の意識も高まり一緒に活動する仲間も増えるなど、邪魔者の放置竹林を資源として活用するだけでなく、地域の活性化も図ることができた。

松江市　ミホツ姫命稲穂の会

美保関で遊ぼう ～ 地域の自然環境から学ぶ体験教室

活動内容

＜竹林整備＞竹の成長速度や放置竹林の危険性の話を聞いた後、整備に取り掛かった。竹の有効利用の意見交換では、タケノコやメンマへ加工する意見が多く出た。
＜片江自然観察会＞さまざまな樹木の特徴や種類の解説を聞き、子供たちはお気に入りの樹木を選んだ。片江古道を訪れる利用者に自然に親しみ楽しんでもらえるように、五感で感じ取ったことを工夫して名板に書き込み、取り付けた。
＜ｻﾝｼｮｳｳｵ調査＞専門の講師からサンショウウオの生態について話を聞き、子供たちは潜みやすい場所を夢中になって探した。見つけると素手で捕まえ、そのかわいさに歓声を上げていたが、じっくりと観察した後は優しく元の場所に戻し、見守った。

活動目的

美保関地区の豊かな自然の中で、さまざまな動植物とふれあう体験や観察会で自然の価値や魅力を学び、自然環境保全の理解と関心を高める。

成　　果

サンショウウオの調査では、２種の生息と卵塊を確認することができた。子供たちが美保関の財産として守っていけるように、学校と連携して保全の取り組みをすることになった。また、自然観察会での五感で感じ取った名板作りが評判になり、他の団体が同じ企画を実施することになった。

津和野町　NPO法人ミライノタネ

地域資源の循環を体感しよう

活動目的

面積の9割を森林が占める津和野町で、森林資源の循環と脱炭素化の意義を誰もが楽しみながら体感できる「植える→育てる→収穫する→使う」のプログラムを構築し、環境養育の新たな魅力を創出する。

活動内容

1泊２日のキャンプをとおして森林資源の活用と循環を学ぶ。
＜1日目＞林業の専門家に教わりながらクヌギの伐採と薪割りの挑戦、またシイタケの食菌を体験した。バイオマス発電所の見学では、町内の木材を活用する発電は、森の成長を促し脱炭素化への役割を果たしていることなどが学べた。
＜2日目＞クヌギを植樹し、森とのふれあいを満喫した後、振り返りのミーティングを行った。元気な森を守るためには、伐って、使って、植えて、育てる、森の循環が豊かな地域づくりにつながることを学び、町の森林資源に関心を深めた。

成　　果

津和野町や教育委員会、また町内の事業所と連携して森林資源の循環を体感できるプログラムをスタートすることができた。参加した子どもたちは、あふれる資源に関心を持ち、楽しみながら学べ「将来、木に関係した仕事をしたい」「家で木を使う発電ができたらいいな」などの感想があった。町外からも多くの参加者があり、津和野町の脱炭素社会に向けた取り組みをアピールすることができた。